

## 音声と視覚の違い、司法の場での扱い…

神戸

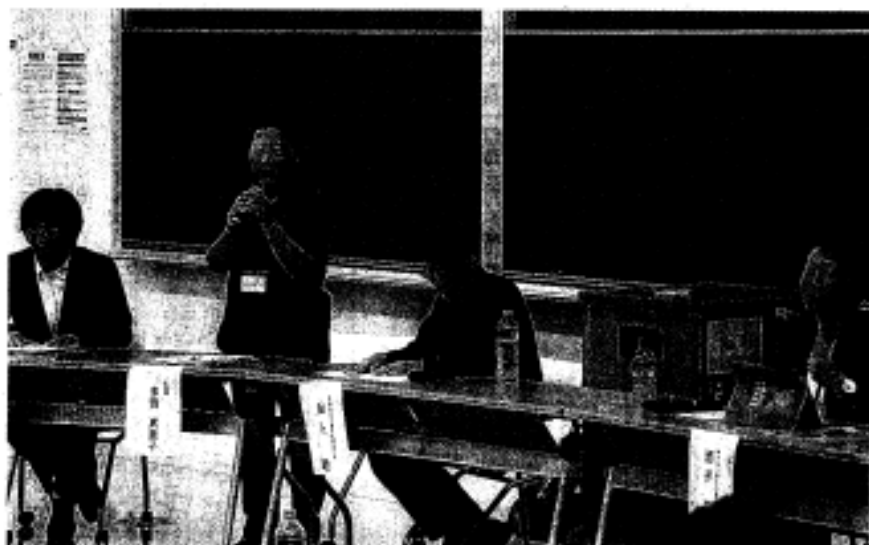
手話通訳について学ぶ催し「あなたの知らない手話通訳の世界」が15日、神戸

市東灘区の甲南大で開かれた。聴覚障害者と健常者による理解の差や司法通訳の問題などを巡り、当事者や専門家らが意見交換。模擬法廷での演習もあった。

関西学院大学手話言語研究センターと日本手話通訳士協会兵庫支部の共催。約100人が参加した。

シンポジウムには6人が登壇し、伊丹市が派遣する手話通訳者の酒井智子さんは「聞こえない方は見る文化。相手の心理を声の抑揚から判断しにくい」と説明。「(嫌々ながら承諾する場合)なぜ嫌なのかを足して手話通訳をしたり、(音声言語に通訳する際に)やりわりとした言葉に変えたりすることで、意思の疎通が円滑に進むように工夫す

## 手話通訳の課題 識者ら議論



手話通訳の課題について話す登壇者＝神戸市東灘区岡本8

る」と話した。

一方、同支部の池上睦支部長は「本人の意図をくんで目的を達成できるように表現を変えて通訳をするが、それが本当に正しいのか悩むこともある」とした。

甲南大法科大学院の渡辺

(篠原拓真)

修教授は、裁判で手話通訳のニュアンスを軽視する判決文を書いた裁判官もいたといい、「手話文化を守る必要性を法律家はしっかり認識すべきだ」と強調した。